

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	えすく羽鳥（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・感覚統合遊具の導入により、子どもたちの脳の発達が進められ、楽しさや探究心、主体性、達成感といったポジティブな感情を育む環境が整っている。	・感覚統合遊具の導入により、子どもたちの脳の発達が進められ、楽しさや探究心、主体性、達成感といったポジティブな感情を育む環境が整っている。さらに、各活動に合わせた環境構成の工夫を意図的に行い、子どもたちがその時々興味やペースで取り組める場を提供することで、より質の高い支援を実現している。	・施設内の職員全員で情報を共有し、アイデアを出し合う取り組みを推進することで、サービスのさらなる充実を図っている。
2	・土曜日に開催されるイベントが多彩で充実しており、利用者同士の交流や豊かな体験を促進している。	・土曜日に開催されるイベントが多彩で充実しており、午前と午後の各3時間の支援時間を活用し、制作、食育、お出かけ、レクリエーション、季節行事など各種活動の計画や事前準備、職員間の話し合いを徹底することで、参加者が安全かつ積極的に取り組める環境を意図的に整えている。	・子供たちが楽しいと感じる内容の考案や、過去の活動内容を応用・発展させる取り組みを意図的に進めることで、イベントのさらなる充実と質の向上を図っている。
3	・支援中の子どもの様子が正確に記録され、最新の情報を適宜提示する体制が整っており、それにより個々のニーズに応じた適切な支援の実施や継続的な質向上が実現されている。	・各職員は日々の観察を詳細に記録し、個々に合わせた運動や学習プリントを活用して具体的な支援を行っています。また、電子ツールでデータを一元管理し、定期的なミーティングで最新の記録を共有することで、支援プランの見直しと質の向上を推進している。	・保護者に直接子どもの姿をご覧いただく機会を設けることで、支援現場の透明性を高め、保護者との信頼関係を強化するとともに、現場からのフィードバックを活かして全体の支援体制のさらなる充実を実現していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等との連携や地域の子どもたちとの交流が不足している。	・地域との連携ネットワークがまだ十分に構築されていないことと、内部業務が優先されるために外部交流に充てられるリソースが限られている点が挙げられる。	・現状、支援に充てられる時間が限られているため、内部業務が優先され、保育所等との連携や地域の子どもたちとの交流が十分に進められていない。これを改善するためには、定期的な情報交換会や共同イベントの企画、専任の連携担当者の配置、そして内部業務の効率化など、限られた時間を有効に活用する工夫が必要。
2	・事故や災害に備えた訓練体制が十分に整備されておらず、迅速かつ適切な対応を実現するために、定期的な訓練の実施やプログラムの見直しが必要。	・利用メンバーが日によって異なり全員が統一した訓練を受けることが困難なため、事故や災害に備えた訓練体制が十分に整備されず、迅速かつ適切な対応を実現するためには定期的な訓練実施とプログラムの見直しが必要。	・オンライン訓練や役割別モジュールなど柔軟なプログラムを導入し、定期的な見直しを行うことで、迅速かつ適切な対応体制を整える必要がある。
3	・土曜日の行事におでかけを取り入れたいと考えていますが、現状のサービス提供時間帯や職員数の制約から実施が難しい状況。おでかけを実施するためには、職員の増員も必要と考える。	・土曜日のおでかけ行事実施には、現状のサービス提供時間帯や職員数、シフトの柔軟性、安全管理体制の課題が影響しており、職員の増員と体制の見直しが必要。	・職員増員に加え、シフトの柔軟な調整やサービス提供時間の再検討、安全管理体制の強化を図るとともに、定期的な研修やマニュアル整備によるスタッフの意識向上など、複数の角度からの取り組みが必要。